

〈研究主題〉

## (2) 「人を思いやり、生命を大切に作る心を育てる道德教育」 —「心にひびく」授業と体験活動を通して—

五條市立五條西中学校

### 1 はじめに

(本校の概要)

本校は、宅地開発に伴う生徒増によって、平成9年4月に五條市立五條中学校を分割する形で開校した。校区は、五條市の北西部にあって、大阪府と和歌山県に接し、金剛山麓の緑豊かな自然に恵まれた環境の中にある。旧来の農村地域と新興住宅地域からなり、生徒の大半は新興住宅地域から通学している。

この新興住宅地域は核家族が多く、実施したアンケート調査では、祖父母と同居している生徒の割合が2割弱であり、高齢者とふれ合う機会が比較的少ない生徒が多いことがうかがえる。

本校ではこうしたことから、開校当初より、隣接する「まきの苑」(高齢者福祉施設)との交流学習を行ってきた。

(研究主題の設定理由)

最近の大人社会のモラルの低下には、目を覆うものがある。中でも最も大切にしなければならない「命」さえも軽んじる事件が後を絶たない。このような社会の風潮が、次世代を担う子どもたちに与える影響は計り知れないものがあり、子どもによる悲しい事件が続発している。このような中、体験活動を通して、命の大切に作る心や思いやり、奉仕の精神の育成を図る一方、自分たちの手で社会を改善していこうという意識を育てていくことも視野に入れた取組が必要であると考え、本主題を設定した。

### 2 研究課題

- 体験活動等を生かした道德教育の充実
- 生命を尊重する心を育てる道德教育の充実

### 3 研究の特色及び概要

#### (1) 研究組織

全教員が授業研究・資料作成部会、体験活動研究部会、「心のノート」研究部会のいずれかに所属し、各部会が連携を密にして取り組んだ。

授業研究・資料作成部会では、生徒の心に響く資料の発掘と、研究授業後の考察や指導案の再検討を行った。

体験活動研究部会では、授業研究・資料作成部会との連携を図りながら、体験活動を行う時期や、その前後に体験活動を生かしてねらいを深める道德の時間を計画した。

「心のノート」研究部会では、心のノートをいかに活用していくかについて研究した。まず、「心のノート」の中のページを拡大カラーコピーし、掲示板に掲示して、生徒たちの目に触れやすいようにした。また、「心のノート」に関するアンケートを実施し、学校全体や各学級で活用する際の参考にした。道德の時間においても、導入やまとめ等で「心のノート」を活用するように心がけた。

## (2) 道徳教育全体計画及び道徳教育年間計画の見直し

### 【見直しの視点】

- ① 道徳の時間の「ねらい」を明確にする。
- ② 道徳の時間の指導をより効果的なものとする。

### 【重点目標】

- 1年 人を思いやり、相手を尊重する心を育て、自他の生命を大切にする態度を養う。
- 2年 福祉体験学習を通して思いやりのある豊かな心を育て、生命を大切にする態度を養う。
- 3年 生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。



## (3) 道徳の授業についての研修

### 【指導案の検討（各学年）】

#### 指導案・指導方法の工夫、教材の開発・発掘、評価について

##### ① 指導案・指導方法の工夫

- ◇指導案の第一条件は具体的で明確なねらいをもつということである。そのためにどうすればいいかを検討。
- ◇目標、学習内容、学習活動、評価等、学習の構成過程について検討。
- ◇学習内容について「何のために、どのような内容をどう教えるのか」について検討。

##### ② 教材について

- ◇指導する内容と生徒の実態にあったものかどうかを検討。
- ◇「量的な面」と「質的な面」から精選。
- ◇教材の妥当性の検討。生徒の反応を予測。
- ◇地域に即した教材の発掘。地域素材を生かす工夫。

##### ③ ねらいと評価の観点が一致しているかの検討。

## (4) 体験活動等を道徳の時間に生かす工夫及び生命について考える体験活動の充実

特別養護老人ホーム「まきの苑」の高齢者の方々との交流を、体験を通じた道徳教育の一環としてとらえ、学級単位で「まきの苑」を訪問し、高齢者の方々との対話やふれあいを通して、高齢者への尊敬や感謝の気持ちを持ち、他者を大切にする豊かな心、生命を大切にする心を培うことをねらった。この活動を通して、生きること老いることをはじめ人間としての喜びや悲しみを知り、生き方を考える実践的な態度が養われてきている。

また一方で、福祉施設で働く方々の仕事内容を知ることで、勤労の意義等も学べる機会となっている。生徒が施設を訪問するばかりでなく、「まきの苑」で働いている方々をゲストティーチャーとして迎え、働く喜びや苦勞話を聞かせていただいたり、



高齢者と接するときの心構えや注意事項を教えていただいたりした。

また、本校の体育大会や合唱コンクール等学校行事に「まきの苑」の方々を招待する取組を通して、より一層つながりを深めていけるように心がけている。このように高齢者とのふれあいを大切にしながら、その体験を生かして、道徳の時間に生命の大切さや尊さを考えさせる取組を進めてきた。

## 4 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

#### ① 生徒たちの変容

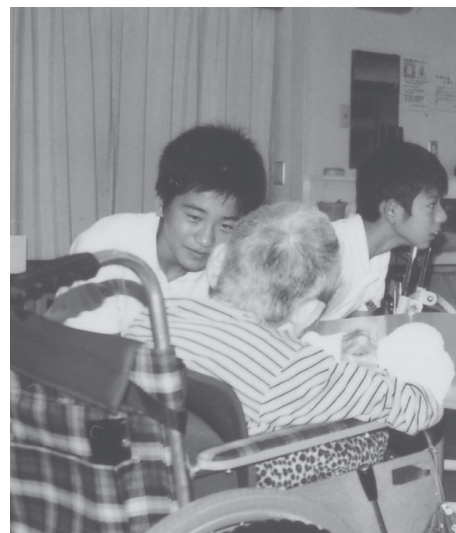
道徳の時間における友達との話し合いを通して、友達のよさや新たな考えに気付くことができた。そのことを通して、道徳的価値の自覚を深め、自分の生き方をじっくりと考えることや、家族や周りの人を思いやる気持ちを大切にす生徒が増えてきた。大きな変容といえるほどの生徒たちの変容は見えてはこないが、生徒たちは少しずつ変わってきている。

#### ② 教員の変容

道徳の時間の授業数の確保や、心に響く授業内容の工夫についての話し合いを通して、全教員が道徳教育に関する意識を向上させることができた。また、各学年での話し合いをより深めることができ、教員間の相互理解や生徒一人一人への理解、そして、より魅力的な授業の創造などにつなげていくことができた。

#### ③ 保護者・地域の変容

道徳の授業の参観や、「心のノート」や授業についての事前の依頼や事後の感想などを書いていただく取組を通して、学校の道徳教育に対する理解が深まってきた。また、生命の大切さや生き方について、保護者と生徒が話し合ういい機会ともなった。



### (2) 今後の課題

「生徒たちの心に響く授業をいかに実践していくか。」

この2年間、試行錯誤しながら、全教員で取り組んできた大きな課題である。よい資料と出会い、的確な発問に導かれると、話し合いが進み、生徒たちは資料中の登場人物の生き方に自分の姿を重ねて考えるようになることが取組を通して明らかとなった。生徒が道徳的価値を自分自身とのかかわりで考えることのできる授業を目指して、今後も資料の発掘、そしてその資料の十分な研究が大変重要であると考えられる。

また、道徳の時間だけでなく、学校教育活動全体で生徒の豊かな心を育てていくため、一日の学校生活や行事などの体験活動を「道徳性の育成」という視点から見直し、その根底にある意義を教員と生徒が共に理解して取り組むことが大切であると考えられる。さらに、今まで培ってきた地域や家庭との連携をより密にし、学校で取り組んでいる道徳教育の内容を理解してもらおうと同時に、地域や家庭の願いを受け止めながらともに手を携えて子どもの心を育てていく取組を進めていきたい。